

地域経済対談

15 下

溝口善兵衛
&
松場大吉

島根県知事

石見銀山生活文化研究所代表

地方に共通の悩みである少子高齢化・人口減少に島根県でも歯止めがかからない。県は現在、他の地域からの移住希望者を支援するほか、就業人口増が見込まれる企業誘致にも力を注いでいる。一方、まじめで優秀な人材が多い島根県には、新しい産業が育つ土壌がある。島根の発展に望ましい取り組みについて、溝口善兵衛島根県知事と松場大吉石見銀山生活文化研究所代表が意見交換した。

「島根での起業希望者を

全面的に支援していきたい」

溝口善兵衛 島根県知事



溝口善兵衛
Zenbei Mizoguchi

1946年島根県生まれ。68年東京大学経済学部卒、大蔵省入省。96年主計局次長、97年大臣官房総務審議官、98年大臣官房長、99年国際局長、03年財務省財務官、04年財団法人国際金融情報センター理事長などを経て、07年から島根県知事。

溝口知事 知事としての私の重要な役割の1つは、少子高齢化および人口減少に有効な手立てを講じることです。島根県の人口は、1955年の約93万人から減少を続け、今では約74万人になりました。人口を増やすために大切なのは、地元の産業を拡大するとともに、外部から企業を誘致して雇用を促進することです。

一方、島根にはおいしいものがたくさんあります。これらの産業活性化を図りたいですね。奥出雲の仁多米は、昼夜の温度差が大きい気候で作られることから大変おいしいコメとして人気があり、新潟の魚沼産コシヒカリと並び称されています。しまね和牛も食通の間で根強い支持を受けています。最近では島生まれ、島育ちをキャッチフレーズに隠岐牛も話題になっていきます。また、浜田沖で獲れる脂のつたノドグロ（アカムツ）は、都会で非常に人気があるようです。宍道湖のシジミも古くから知られています。ほかに、出雲の多伎イチジクなど、おいしい食材には枚挙にいとまがありません。

県ではそれらのおいしい食品を全国にPRしようと、東京の高級スーパーである紀ノ国屋さんと提携して、どうすれば都会の人々に手に取って選んでいただけるかをアドバイザーをいただくとともに、店頭販売もしていただいています。

松場代表 企業誘致も順調なようで

「食料自給率100%の県を

宣言してみませんか」

松場大吉 石見銀山生活文化研究所代表



上／大国主大神を祭っている「出雲大社」。神の国、神話の国として知られている出雲の中心的存在。陰暦の10月は全国の神々がこの出雲大社に集まることから、神無月と呼ばれている。
下／石見銀山遺跡。16世紀、世界で流通した銀の約1/3が日本産であり、そのほとんどが石見銀山で採られたものといわれている。地元の人々が守り続けた世界的な遺産と豊かな自然が認められて、07年2月に世界遺産に登録された。



松場大吉
Daikichi Matsuba

1953年島根県生まれ。81年石見銀山がある大森町で家業である呉服店を継ぐ。布・小物の製造・販売を始める。88年民家を修復し、店舗としてオープン。98年石見銀山生活文化研究所を設立、代表に就任。現在、大森町自治会協議会副会長として、石見銀山の観光客のもてなし向上と住民生活保全に取り組む。

すね。

溝口知事 出雲では三洋電機や村田製作所の工場が操業しています。出雲村田製作所は従業員が2500人を超え、県を代表する電子部品会社です。村田製作所はセラミックコンデンサーの世界シェア3割を誇っていますが、島根でその半分を作っています。安来市には日立金属グループの安来製作所があります。

島根に進出した企業からは、はじめに働く人材が多いとの声が上がっています。この優秀な人材は島根の大きな利点です。

松場代表 先ほど、島根は農産物や水産物に恵まれているというお話がありました。現在は中国の殺虫剤混入冷凍餃子など、食の安全性が非常に大きな社会問題になっています。にもかかわらず、日本の食料自給率は39%で食を輸入に頼らざるを得ないのが実情です。そこで知事をお願いしたいのですが、豊かな土地や海に恵まれた島根県が食料自給率100%の県になることを宣言してもらえませんか。

溝口知事 おもしろいご意見ですが、なかなか難しいのが現状ですね。島根県内のいろいろな場所をまわって実感したのですが農林水産業に従事している人は高齢者が多く、後継者がいないのが発展の大きな壁になっていることです。

松場代表 現在の農林水産業は、都



会の人のために営んでいる面が強いのではないだろうか。そうではなく、地元でとれた食べ物は、地元で消費する。いわゆる地産地消が大切です。地元で消費すると、売り上げは低下してしまうかもしれないが、地元住民だからこそ獲れたての魚や泥のついた新鮮な野菜や収穫直後の果物を味わうことができる仕組みを作れば、副次的効果が得られるでしょう。すなわち、おいしい食べ物を都会に売るのではなく、都会の

人がうらやむような食べ物を地元の人が食べられるようにする。これが実現できれば、企業誘致とはまた違った形で人々を島根に呼び込むことができると思います。

溝口知事 おっしゃるとおり、需要と供給のバランスを取ることが経済拡大のカギです。今、島根では農業の多角化が進んでいます。後継者がいなくなった農家があれば、農業法人が農地を借りたり、買い取ったりして経営するようになりました。都

会で育った若者が島根に来て、農業法人に勤めるケースも増えていきます。働きながら技術を習得し、農家として独立していく人もいます。林業や漁業でも、都会からの希望者が増えてきました。そういう人たちは収入にばかり目を奪われず、生きがいのある仕事に就いて充実した人生を送りたいと願っているようです。

松場代表 都会の若者の多くは、コンピュータゲームを通じて仮想的な空間に慣れ親しんでしまっています。そのため、心から満足できる人生を見つかることが難しくなっています。その反動として、田舎で農林水産業を営み、現実を直視した生活に目を向ける若者が出てくるようになったのではないのでしょうか。これらの人々の希望に応えるため、島根県も若者のための住まいをもっと整備、充実していくことが必要だと思います。最近では、若者ばかりでなく、団塊の世代も同じようなことを考えています。定年で仕事の第一線から退いたのを機に、終の住処^{すまか}を田舎に求める人が出てきました。仕事のための人生は終わったので、今度は自分のための時間を作りたいと思っている人たちです。家は小さくてもいい、ワンルームでもいい、自然の中で暮らしたい。そう思っている人が数多くいるのです。それらの人のために終の住処を作っていたいただきたいですね。

財団法人 ふるさと島根定住財団

島根に移り住んでもらうために島根県が作った定住情報の総合窓口。島根県で働きたいという求職者支援、県内企業の雇用支援、U・ターン希望者に対する情報提供、農林水産業などに従事してもらった産業界体験事業や住まい確保の支援などを手がける。そのほか、住民の自主的な地域づくり活動の支援や「田舎」の価値に気づいて存在意義を再発見してもらったための試みとして、「しまね田舎ツーリズム」も推進している。

島根県立高等技術校

(テクノスクール)

中学校や高校を卒業した人や離職・転職などをした人に、職業に就くために必要な技術や専門知識が習得できる職業訓練を行なう公立職業能力開発施設。松江、出雲、浜田、益田の4校がある。科目は、建築科、左官技工科、土木工学科、自動車工学科、設備工学科、ビジュアルデザイン科などがある。

溝口知事 島根県では財団法人ふるさと島根定住財団を設立し、田舎暮らしの希望者にあき家情報を発信しています。また、就農を前提として農家に住み込み、農業研修を受ける若者たちに助成金を出しているほか、いろいろな職業の習得を目的とした島根県立高等技術校（テクノスクール）も4校あります。

松場代表 もう1つ、知事をお願いしたいことは情報化の推進です。田舎が都会と戦っていくには、情報を



もっと円滑に活用できるインフラ（社会基盤）が必要です。知識は、田舎に住んでいようが都会で暮らしていようが大差はありません。あとは知恵をどう発揮するかが大切です。石見銀山にはまだインターネットで大容量の情報を高速に通信するための光ファイバーもなく、情報基盤が脆弱です。

溝口知事 確かに、インフラは島根の弱点です。島根は山あり、谷あり、川ありで道路を作るのに費用がかかるために道路整備もかなり遅れて

います。インフラの整備が不十分であるために、日本や世界のマーケットで後れをとっていることは否めません。だんだん整備されて山間地にも手早く行けるようになりましたが、海岸部には高速道路がなく、出雲空港から石見銀山へ行くにも2時間もかかってしまいます。道路がもっと整備されると、観光の活性化も図れるでしょう。また、ご指摘のとおり、通信ネットワークの構築も今後の課題です。

松場代表 海岸部の高速道路は確かに必要だと思いますが、道路は最低限のものだけにとどめるべきではないでしょうか。道路があまり発達しすぎると、通過地点となる小さな町が衰退する「ストロー現象」が起きる可能性もありますから。時間がかかることは、あまり気にしなくてもいいんじゃないでしょうか。都会からやってくる人は、その距離を田舎へのプロセスとして楽しんでいくのでしようから。逆に、情報化は早急に進めていたいただきたいと思っています。私たちの店は全国各地にあります

が、光ファイバーがないために各店との情報の共有化が困難です。そういうマイナス面をクリアしてこそ、島根に移り住みたいと思ってる若者が、ここでの暮らしに自信が持てるようになると思います。人を引き付けるためには、単に物を与えるだけでなく、自信を持たせてあげることが大切です。

溝口知事 情報化に関しては、できる限り素早く整備していこうと思っています。

松場代表 これからの時代は、大企業がどんどん生まれてくると思えません。中小企業にしても売り上げ30億〜100億円のクラスの企業はそれほど増えないでしょう。小粒だけどキラッと光る企業がたくさん生まれてくると思います。そんな時代だからこそ、地方で生きていく意味がある。企業規模を大きくすると、維

創業者支援資金

中小企業の施設・設備の近代化、経営の合理化等に必要資金を、金融機関の協力を得て融資している。

そのうち、創業者支援資金は、新たな事業を行なう者に対して、その計画段階から事業開始後5年未満の期間において、必要な資金を設備(5000万円・12年以内)および運転資金(3000万円・7年以内)として、年1.8%または1.95%で最長12年間貸し付けられるもの。

持していくことが負担になってくることもあり得ます。だから、新しい事業を起こすならば、大きくしようとするのではなく、いかに自身の濃い企業を作っていくかが大切です。小さい会社にとって必要なのは、事業資金だけではなく、時代の流れを的確につかむ情報分析力だと思います。

溝口知事 県としてできることは限られていますが、資金面としては中小企業制度融資に創業者支援資金を設けています。県内の中小・ベンチャー企業にはできるだけ手厚く後押しをしていきたいと考えています。

松場代表 当社も創業から20年間でたくさんさんのマスコミで紹介されるなど、ブランドの確立には成功していると思えますが、経営的にはまだまだ不安定な状況です。県内の中小企業が資金繰りなどで安心できる経営環境の整備もお願いします。

溝口知事 もちろん、積極的に支援を行なっていききたいと思っています。